

### 42年度外人意匠専門家招へいセミナーの開催

産業工芸試験所は毎年わが国貿易振興の一助として海外よりデザイン関係の専門家を招いてセミナーを行ない、広く専門知識を吸収してデザイン研究の発展に役立てようと努めてきているが、今年度はフィンランドより、リーサ・ヨハンソン・パーベ女史とボリエ・ベルンハルト・ラヤリン氏を招き、2月26日より3月5日までIAIの本所講堂において照明器具、厨房用具、テーブルウェアなどのデザインにおけるさまざまな問題についての研究セミナーを行なった。主な講義内容は次のとおり。

フィンランドの風土、生活方式、建築について(ラヤリン)；フィンランドにおける住宅から厨房までの問題(ラヤリン)光の導入—照明に関する諸問題点(パーベ)；テーブルウェアのデザインにおける問題点(ラヤリン)；照明器具の歴史的発展過程(パーベ)；ジャパン・デザインハウス“照明器具のデザイン展”会場での説明会(パーベ)；金属製厨房用具、洋食器について(ラヤリン)；照明技術の諸問題について(パーベ)；北欧における品質保証の問題(ラヤリン、パーベ)；フィンランドにおけるプロダクト・デザインの教育について(パーベ、ラヤリン)；フィンランドの造形美術と工芸の紹介(パーベ、ラヤリン)。

Lisa Johanson Pape 女史は1907年ヘルシンキの生れで、フィンランド国立中央工芸学校を卒業後、1937年よりストックマン百貨店に属し、長年にわたって照明器具をはじめ、テキスタイル、家具などのデザインを手がけてきている。ことに

照明器具のデザインでは多くの実績があり、高い評価を受けている代表的デザイナーの一人である。現在女史はストックマン・オルノ社のチーフ・デザイナーをつとめるかたわら、国立中央工芸学校の教授をつとめている。1937年パリ万国博でデブロム・ドノール賞(ラグ)、ミラノ・トリエンナーレで金賞1回、銀賞2回(照明器具)受賞。

Börje Bernhard Rajalin 氏は1933年同じくヘルシンキの生れで、国立中央工芸学校金工科を卒業。主として金属を扱うデザインにたずさわり、銀器、宝石細工ステンレス製厨房用品などを手がけてきているが、展示、インテリアなどの分野でも活躍している。1961年より同じく国立中央工芸学校教授。第12回ミラノ・トリエンナーレ金賞、1963年ミュンヘン国際手芸展金賞受賞。

**科学技術庁在外研究員の派遣** 科学技術庁では欧米諸国の新しい科学技術修得を目的として、国立研究機関の中から研究員を選抜し、海外に留学させる制度を設けているが、昭和42年度は産工試からも技術第2部、渡辺健朗技官が選ばれ、包装技術研究のためアメリカのミシガン州立大学に派遣された。派遣期間は42年12月20日から43年12月19日まで。

**海外技術指導員の派遣** 低開発国技術援加計画にもつぎ、産業工芸試験所より研究員2名が海外技術指導員として派遣された。永松千幸技官(九州出張所)〔派遣先〕ウガンダ〔期間〕43年2月20日から44年2月19日まで。〔目的〕竹加工

技術の指導。/宇川暹技官(技術第1部)〔派遣先〕イラン〔期間〕43年2月23日から44年2月25日まで。

**工業技術連絡会議各連合部会の開催日程** 工業技術院は国立および地方公設試験研究機関相互の連絡と技術情報の交換、研究発表会などを中心議題とする各技術部門別の連合部会を毎年1回各地で開催しているが、本年度の開催日程が次のように決定した。機械金属：東京・5月29～31日、化学：福岡・5月15～17日、繊維：東京・4月24～25日、工芸：徳島・5月15～17日、窯業：松山・5月14～16日、産業公害：熱海・5月8～10日。

**昭和42年度受託研究** 国立研究機関における研究は、本来不特定多数の利用を目的とする基礎的普遍的性格をもつものであるが、工業技術院では各研究機関における既往の、あるいは進行中の研究をいかして、ある特定目的の応用研究を行ない一般企業、団体では解決しえない技術的問題の究明を図る受託研究制度を設けている。産業工芸試験所においても研究成果の普及、実用化の観点からできるだけ民間企業の希望を受入れているが、昭和42年度に行なわれた受託研究は次のとおりである。旋削加工品の材質強化試験：委託者・福岡県日田産業工芸試験所・研究費46,000円/樹脂注入家具部材の乾燥および接着性試験：委託者・福岡県大川木工指導所・研究費184,000円/プラスチック(ABS)へのメッキに関する研究：委託者・東洋高圧工業(株)、研究費142,000円。

L.J. パーベ女史と B.B. ラヤリン氏

